第1回富士川維持流量検討会 議事要旨

【開催概要】

- 日程: 令和4年10月31日(月)15:00~17:00
- 会場: 甲府河川国道事務所第一会議室(Web方式)
- 出席者: 末次委員長
浅見委員、大石委員、大山委員、風間委員、近藤委員、馬籠委員
オブザーバー: 山梨県、静岡県
- 欠席: 秋山委員、大槻委員

【議事概要】

1. 開会

- ・開会あいさつ

2. 留守甲府河川国道所長 挨拶

- ・富士川では、平成14年度に河川整備基本方針が策定され、平成18年度には今後概ね30年間を目標とした富士川水系河川整備計画が策定された。
- ・令和2年度から3年度にかけては、河川整備計画策定後の社会情勢の変化、地域の意向、河川整備の進捗状況の見通しなどを適切に反映できるよう富士川水系河川整備計画フォローアップ委員会を開催し、学識経験を有する先生方の意見を聞いてきた。
- ・このフォローアップ委員会において、「富士川にあるべき流水の正常な機能の維持に関する水量の算定等、いわゆる正常流量の設定に向けた調査及び研究を行うとともに、地下水の伏流及び還元実態についても調査及び研究を行う。」とされており、継続して検討してきたところである。
- ・また、富士川は日本三大急流河川の一つであり、土砂供給も著しく小さな出水でも澗筋が変わり、生物の生息場所となる瀬と淵の場所・形状が非常に変わりやすく、礫河原が広がっている。
- ・この礫河原が広がる場所には、この環境に適した生物の生息や繁殖の場が形成されており、富士川の河川環境の大きな特徴の一つとなっている。
- ・今回開催させて頂く検討会は、このような特徴も踏まえた富士川正常流量の一部分を担う維持流量の検討に際して、学識を有する先生方から技術的意見を頂くことを目的に設置したものであり、甲府河川国道事務所としては、頂いたご意見も参考にして今年度中の維持流量設定を目標として参りたい。
- ・本日は忌憚のない意見を頂きたく、よろしくお願い申し上げます。

3. 議題

- 1) 富士川維持流量検討会の規約等について(資料①、②)
 - ・事務局より資料①②を説明し、了承を得た。
- 2) 富士川における維持流量の検討の進め方について(説明資料1)
 - ・事務局より説明資料1を説明し、了承を得た。

3) 富士川維持流量検討会第一回資料(説明資料2)

- ・事務局より説明資料2を説明し、以下のとおりやりとりがあった。

【委員長挨拶】

- ・本検討会では、環境や水質等から見た維持流量の検討方法について皆様に議論をして頂く。
- ・富士川水系河川整備基本方針では、基本高水流量や計画高水流量、計画高水位、川幅、正常流量等が規定されることになっているが、富士川では慣行水利権の実態や、地下水の挙動などの水収支が不明なために正常流量はまだ定められていない状況であり、維持流量も決まっていない。
- ・維持流量は魚の生息状況や景観等の河川環境や、水質、漁業などにとっても非常に重要な流量となる。富士川では検討にあたってデータが十分でないものもあるが、データのある範囲内で専門家の皆様の知恵を絞って頂いて、河川の特性から見るとこういった調査等があるとか、こういう手法を用いると流量設定できるのでは、といった提案をお願いしたい。

【各検討項目】

- ・「動植物の生息・生育」、「漁業」においては、一般的な方法として代表魚種を選定する予定。詳細な検討を実施し、事務局より次回に説明をする。
- ・「景観」においては、富士川を題材にした絵画等もあることから歴史的な面からの確認が必要。詳細な検討を実施し、事務局より次回に説明をする。
- ・「流水の清潔な保持」においては、下水道計画の水質を対象として検討を実施し、事務局より次回に説明をする。
- ・「観光」においては、地元の自治体が、重要な観光資源として捉えているものを想定しており、現在富士川を利用してどのような活動が行われているか聞き取りも行き、必要流量の対象になり得るかどうかを含め検討を実施し、事務局より次回に説明をする。
- ・「地下水位の維持」について、収集したデータからは地下水位変化(上昇の)の原因は把握できていない。天井川という特性もあり、関東地方の河川には事例が無い。情報収集に当たり委員の皆様からの知見も頂きたい。

4. その他

- ・特になし

5. 閉会

- ・閉会あいさつ